

映画から考える

中東の言語と社会

Le fils de l'Autre

映画 もうひとりの息子 をめぐって

*作品提供:ムヴィオラ



本映画はフランス作品で、監督はフランス系ユダヤ人の女性監督ロレーヌ・レヴィ。戦火の中でイスラエル人とパレスチナ人の赤ちゃんが取り違えられ、それが18年後に血液検査でわかり、お互いの家族が会おう、というストーリー。フランス語、ヘブライ語、アラビア語が使用されます。

アラビア語は、次年度から本学の選択外国語として受講生募集を控えており、私たちもこの言語について認識をあらたにすべき時期かと思えます。また、このような中東の問題にフランスが深くコミットしていることにも注意すべきで、フランス語にも耳を傾けたいと思います。社会についてみれば、イスラエルとアラブの問題は、現在の世界情勢を説くまでもなく、いまや日本人にとっても非常に重大となっています。



■日時

2015年3月21日(土)15時00分~上映・16時40分~解説

■解説

小野 純一 東洋大学国際哲学研究所研究員
アラビア哲学専攻

■進行

土屋 昌明 専修大学経済学部教授

■会場

専修大学神田キャンパス202教室(1号館2階)

映画概要:『もうひとりの息子』

原題:Le fils de l'Autre 英語タイトル:The Other Son

監督・脚本:ロレーヌ・レヴィ 映画配給:ムヴィオラ社

2012年/フランス/105分/

フランス語・ヘブライ語・アラビア語・英語/日本語字幕

第25回東京国際映画祭グランプリ & 監督賞受賞作品



参加無料・申込不要

問い合わせ先: 専修大学CALL事務室

✉ i_call@acc.senshu-u.ac.jp
☎ 044-911-0502